

授業見学に参加して学んだこと

東京福祉大学学長補佐
元東京福祉大学学長
元筑波大学第二学群長
元筑波大学第二学群人間学類長
元筑波大学心理学研究科長
元学習院大学教授
日本認知心理学会初代理事長
教育学博士 太田信夫

先日の臨床心理士・公認心理師試験対策授業の見学に参加し、中島総長のご指導のもと、学生の視点から私の感想を述べさせていただきます。

私は、頭の回転も筆の速さも遅いですが、今回、学生になったつもりでグループディスカッション（教員仲間）、下書き、清書など、実際に行いました。結果として、制限時間内に制限字数内でレポートをまとめることができ、自分にはよくできたと満足しています。

この満足感は、出題の論述問題に回答するには、普通ならもっと時間のかかるところを時間内にしかもスムーズにできたところから来ています。これは、総長のご指導と、授業担当の先生の授業準備や授業進行の適切さのお陰だと思いました。特に、論述問題のレポートの書き方や考え方に対する総長のご指導から学ぶことが多くありました。総長のご指導のもと、授業の開始からレポート完成までのプロセスは、次のようでした。カッコ内は私の感想です。

①まずは、今回の論述問題で問われているいくつかのポイントと、問題の重要性について、総長の解説がありました（本日の授業の方向づけと意義を理解できました）。

②次に本問題について参考になる『臨床心理士』のテキスト《配布資料》を、学生に順次読ませました。その際、テキストには重要なところに随時線を引くよう総長の注意がありました（アンダーラインを引くことは、その部分への注意の喚起と後で読み返す時の理解にとって大変重要なことだと思いました）。

③本問題に対するレポートの全体的な構成を考え、下書きを書く事になりました。総長からは、テキストの中で引用するところを決め、そのいくつかの引用部分をつなぐような形で全体の文章を書くよう指導がありました。これについて、グループディスカッションをすることになり、学生も見学の教員もディスカッションをしました（確かに何も無いところからすべて自分の文章でレポートを作成するよりは、テキストの引用文を手がかりに全体的に自分の考えを書くほうが、書きやすく試験対策としては効率的だと思いました）。

【ここで午後の1限目終了、15分の休憩】

④2限目は、下書きを基に、清書をすることになり、80分間、与えられました（私は、本問題で問われているいくつかのポイントについて、レポート全体の構成を自分なりに明確にした上で、下書きを基に、作文しながら清書を始め、制限時間の約20分前にレポートを書き終わりました。総長の‘完成した内容を暗記することが大切だ’という指導に基づき、余った時間は、レポートの内容の骨組みがひと目で分かるように、数個のキーワードでシンプルに図に表し、それを見て内容の暗記に努めました。’今回の問題は臨床心理士としての本質的かつ基本的な問題なので、今後もこれに類する問題は必ず出題される’という、総長の言もあり、このキーワードの図について、資格試験が近づいた時期には、必ず復習し、今日の学習を定着させることが大切だと思いました）。